

前期前半終了時朝会でのお話(令和3年7月21日)

皆さんは、熊谷のことをどれくらい知っているのでしょうか。

ここ江南地域には、
ゲンジホテルというきれいな水のところにしか育たないほたるが自然に暮らしていける環境があります。
これはとても珍しいことで、とても誇らしいことです。
ホテルのえさになる「カワニナ」という生き物がきれいなお水の中にしか生きられないからです。

そしてここ熊谷は
太平洋戦争といわれる大きな大きな戦争の終わる前の日、ひどい空襲にあいました。
今から76年前の1945年8月14日のことです。
みなさんのおじいさんやおばあさんも生まれていないころかもしれません。

空襲というのは、戦争の相手が飛行機から爆弾を落とすことを言います。

1945年8月14日の真夜中に、熊谷の街中、1平方キロメートルの広さの場所に、1時間16分、660トンもの爆弾が空から落とされました。飛行機の部品を作る工場が熊谷の街にはたくさんあったからということです。

1平方キロメートルとは、学校から東に行くとファミリーマートがありますね、
もう一辺は学校から南にいくとピピアがありますね。
それらを結んで四角にしたくらいの区域でそれほど広いわけでもない場所に
1時間16分とは、1時間目が始まってお休み時間も含めて2時間目の途中までの長い時間
660トンとは、江南北小の皆さんが、たとえば小さいほうのペットボトルを全員一人7000本ずつ、空から落としたのと同じくらいの量です。
でも落としたのはお茶でも水でもなくて爆弾です。
何かに当たるとバーンと爆発する爆弾です。
それが空から雨のように降り続いたのです。
熊谷の街は瞬間に炎に包まれました。街の3分の2が焼かれました
街の中に星川という川が流れていますが、街が焼けて熱いと川の水に人が多く押し寄せました。そこに川の両方から火が迫り、命を落とした人もたくさんいました。
そしてここにいる皆さんの数よりずっと多い266人の人が一夜で亡くなり、3000人も人がけがをしました。

とても恐ろしいことです。

それから長い月日をかけて焼け野原になった街をきれいに整えて、今の熊谷はあります。
毎年星川では灯籠を流して、この時亡くなった人たちの霊を慰めています。

今皆さんが当たり前のように暮らすこの江南、熊谷は、
きれいな水を守っていこうとする人々、悲しい出来事を乗り越えてそれでも強く生きていこうとする人々の努力で出来ています。

コロナウイルスの感染を予防するため、なかなか外出もしにくい今だからこそ、
自分の生活するこの地域を知ってみるよい機会にしてもよいかもしれません。

健やかに楽しく、意義のある夏休みを過ごしてください。

これで校長先生のお話はおしまいです。